

## 3 (承前)

第二次世界大戦終結後、多くの国が独立を勝ちとつたが、植民地となつた唯一の国がチベットであると亡命チベット人ベマ・ギャルポは自著「チベット入門」で書いている。また彼は中国侵略以前、チベットは世界で最後の神政国家だつたと紹介している。「シンセイ」とパソコン入力しても「神政」という変換文字は出てこない。国家体制としては実に希有な存在である。神政国家について「ダライ・ラマ法王は慈悲の菩薩、観音菩薩の化身と信じられており、その存在はチベット仏教の法王であり、政治上（俗界）の国王である」と解説されていた。今でも、チベット民族の間では法王であり国王であるダライ・ラマ14世が追われた「ポタラ宮」に漢民族や外国人の観光客を無制限に入れることをチベット人はきつと快く思わないのではないだろうか。入場を制限する中国当局の方針にはチベット人に対する配意と警戒心が含まれているようにも感じた。観光名所となつた主な「ポタラ宮」を仰ぎ見るチベット族の人々はいつたい何を思うのだろうか。

私がチベットに行きたいと思うようになったきっかけは二年前にさかのぼる。雲南市三刀屋町にある名利、峯寺で毎年「チベットフェスティバル

ル」が開催されているという情報をキャッチ。当日予定されていた「人間の幸せとは？チベットを通して考える」という対談のテーマに惹かれて参加を申し込んだ。対談は今回のツアーガイド渡部秀樹さんと福岡在住の亡命チベット人ゲレックさんによつて行われた。ゲレックさんの話は私の想像力をはるかに超えるもので頭の中は混乱しまくつた。一番印象に残つたのは命がけの亡命行である。ゲレックさんが12歳の時、ラサからネパールまでヒマラヤを越えて亡命した話だ。しかも冬季にである。冬季の方が監視がゆるく亡命しやすかつたそうだ。見つからないように移動はもっぱら夜間にしました。昼間は凍傷にならないようにと足踏みしていました。そんな亡命行を淡々と語るゲレックさん。彼の話を私の頭の中で映像化することができず、何度か質問もした。謎が謎を呼ぶようなことになってしまったのを今でも覚えている。「人間の幸せってなんだろう？」その問いはゲレックさんの話を聴くことでかえつて私の中でふくらんでしまった。同時に信仰に根ざした生活によつて人々が幸せに暮らしている地、チベットへの憧れもふくらんでいった。

目次	
手作りのくらし2	木幡 智恵美 1
ニュース日記	中村 礼治 2
西藏旅行記	幸田 和彦 4

### 手作りのくらし2 28

## ハギレで 2

### 木幡智恵美

今年も昨年に負けず劣らずの猛暑。夜、寝る時はタイマーをつけてエアコンをつけるが、日中は扇風機で過ごす。タオルに保冷剤をくるんで首に巻き付け、午前中は家事を間に挟みながらパソコンに向かい、点訳や校正をする。義母がデイサービスに行かず家にいる時は、室温チェックに度々部屋に向かう。あと数か月で百歳になる義母は体温調整が難しく、「今日は暑いかいねえ」などと言われるのだ。温度計を見て、朝のうちは扇風機をつけ、30度を超えるとエアコンを入れる。次に様子を見に行くと、部屋を全開にしている、「エアコンを入れてますから、閉めますよ」なんてことはしばしばだ。そうしてバタバタ動いているうちに、はたと思つた。ノースリーブ、もつと欲しいな。暑い中、袖など不要、この一枚布で作ったノースリーブが楽だ。少しでも涼しく感じるの

で、猛暑にあつては快適なのだ。そこで、寛大や実歩に作つた服の残り布を引つ張り出してみた。寛大の浴衣を作つた残り布はまとまつた広さが無い。実歩のワンピースの残りは、寛大のほどではないが、身ごろにする広さはない。そうだ。縦一メートル、横五〇センチで一着できたのだから、百均に行つて、ハギレで作ればいいのだ。同じ色の柄が複数あつたのは紺のチェック柄のハギレ。縦六〇センチ、横五〇センチの布を三枚買つて帰つた。

ネットで型紙を検索し、これにしてみようと思つたのは、ノースリーブではあるが、肩が隠れるくらいになつたもの。先に作つたような胸がズドンと真つすぐなものではなく、肩幅が少し広く、袖部分を斜めに下りて、脇から下が真つすぐといった形だ。後ろにチャックをつけるので、後ろ身ごろは左右二枚になる。カレンダーの裏に、製図して型紙を作り終え、布に当てる。二枚分を後ろ身ごろに当て、三枚目に前身ごろを当てると丈が少し足りない。うーん、どうしよう。

そこで、寛大や実歩に作つた服の残り布を引つ

## 安倍政権が改憲を本気になれない理由

**30代フリーター** やあ、ジイさん。衆院予算委員会で安倍晋三に憲法改正について質した辻元清美が、質問を終えたあと周辺に「改憲は本気ではないと思う」と話した、と報じられていた（10月12日朝日新聞朝刊）。

**年金生活者** その推察はたぶん当たっている。同じ日の予算委員会では首相は改憲について「私が意欲を示すことがかえってマイナスだと議論する我が党の人がいる。若干不愉快だが、一理あると思わざるを得ない」と語ったとも報じられている（10月11日毎日新聞電子版）。

議員たちがいつも第一に考えているのは選挙のことだ。9月の朝日新聞の世論調査によると、安倍政権のもとでの憲法改正に賛成は33%、反対は44%となっている（9月16日朝日新聞デジタル）。選挙の顔である首相がそうした世論に逆らって改憲の旗を振り続けられれば、国民の多くが反発し、自民党は選挙で議席を減らす恐れがある。「マイナス」を懸念する声が党内にあるのは当然だ。

**30代** 党内の一部だろ？

**年金** 事実上は多数の声である可能性が高い。それでも自民党

自民党が野党時代につくった憲法改正草案には、国防軍の保持、国民の義務の強調、緊急事態にもなる権利の制限など、明治憲法の部分的な復活を思わせる条項があり、それが安倍政権の成立で荒唐無稽とばかりは言えなくなつたと国民が判断したと考えることができる。

だからこそ、彼は党の改正草案にある国防軍の保持を引っ込め、代わりに9条への自衛隊明記という新たな改正案を持ち出した。

**30代** 改憲の党是は国民に嫌われただけか。

**年金** そうとは言えない。この党是はアメリカから押しつけられた憲法を拒否する宣言でもあり、それには対米自立を求める国民の多くが支持を与えていたと考えることができる。

国民の多くが憲法の中身は支持しながらも、押しつけには不満を抱いていたことは、1960年の安保闘争で反米ナショナルリズムが表面化したことであらわれている。55年体制下で反米路線を取り続けた社会党や共産党が国会の議席の3分の1に相当する国民の支持を集めたのは、対米従属を嫌う国民の意思が背景にあったからだ。

だが、社共両党はアメリカが憲法とセットで日本に押しつけた日米安保条約には反対しても、憲法のほうはありがたく受け入れ、押しつけの事実には目をつぶり続けた。東西冷戦の東側陣営のイデオロギーの制約を受けていたからだ。

そうした野党の姿勢は対米従属を半分ほど容認する態度として国民の目に映つたはずだ。その不満の埋め合わせを自民党の

が改憲を訴え続けるのは、それを目指すことが党のアイデンティティーを形成し、党員の結束に欠かせない要素になっているからだ。改憲の旗を降ろせば、改憲を本気で願う安倍晋三のコアな支持層を失うことにもなる。

かといって、前のめりになり過ぎると、国民に警戒されてしまう。安倍政権には改憲に本気になれない十分な理由があるといわなければならぬ。

**30代** 憲法改正は自民党の党是だぞ。

**年金** その党是がかえって改憲にブレーキをかけてきた。国民に改憲を意識させ、警戒感を抱かせた。そう推定できるデータがある。

憲法をめぐる朝日新聞の世論調査結果の推移を示すグラフによると、1997年から2013年までは、いまの憲法を「変える必要がある」が「変える必要はない」を上回っていたのに、2014年からはそれが逆転している（2018年5月1日朝日新聞デジタル）。改憲を最大の課題とする第2次安倍政権がその1年余り前に成立し、国民は警戒を強めたためと見ることが出来る。

改憲の党是に求めたと見ることが出来る。その自民党は他方で、野党とは逆に日米安保条約の堅持をかかげ、やはり半対米従属の路線を取り続けた。国民は与野党の路線を足し合わせ、それぞれに票を分け与えることで対米自立への要求を表出してきた。

**30代** わが首相は憲法改正に向けて政府・与党への支持を固めようと、自身のイデオロギーに反するようなりべラルな政策を実行しているように見える。

**年金** 最後は改憲を国民に拒まれて、政策だけ「食い逃げ」されることになるんじゃないか。

金融緩和と財政政策を両輪に「大きな政府」へと突き進んできたアベノミクスはこの政権の最大のりべラルな政策といつていい。それは需要を創出し、若年層を中心に雇用を確保してきた。政権はさらに「女性の活躍」や「多様性」を掲げ、経済面ばかりでなくイデオロギー的にもりべラル色を打ち出した。

対外的には、中国に気をつかい、あんなに行きたがっていた靖国神社に行くのをやめた。集団的自衛権の部分的な行使を可能にする安保法制をつくりはしたが、実際の行使はほとんど想定できないほどがんじがらめの制約をもうけていて、世界標準に照らせばまだハト派の色を残している。

9条を変えることは、安倍晋三の理想とする「美しい国」をつくるのに欠かせない。そのモデルは彼の祖父が閣僚を務めた大日本帝国と推察される。しかし、理想に近づく手段として採用されたリベラルな政策は、その理想を侵食し続けている。